

『Mind Charging』

第 220 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 2 月 24 日

レイチェル・カーソンの名言



It is not half so important to know as to feel.

『知る』ことは『感じる』ことの半分も重要ではないのです。

知ることが重要ではないということが言いたいのではなく、ことわざにある“百聞は一見に如かず”のようなメッセージとして、『知ることの重要性は、ご存知のようになり大きなものですが、感じることの重要性はその 2 倍もあるんですよ！』ということをお伝えしたいのだと感じました。

人の行動の“順番”や“数”を考えた時に、『確かに感じることの方が先だし 2 倍くらいあるかも・・・』と思いました。感じたことがあるから、それについて知りたくなります。また、少し気になる程度のことは答えがわからないまま終わっても平気です。会話の中で時々出てくる“卵が先かニワトリが先か論”にも感じますが、みなさんの幼い頃や幼い子供のことを思い出してください。『なんで？』が多くないですか？子供の頃は、未経験なことが多いということもあって見るもの全てが新鮮で知らない物事が非常に多いものです。こちら側としては“逆になんでそれを知りたいの？”と思うような質問も多いのですが、答えを知る必要性の有無は、好奇心旺盛な子供にとって気にするところではありません。成長と共に様々な経験を経て、『察する』ということも徐々に覚えていくものですが、時々このようなやり取りを小さい子供とする時に『疑問をとにかくぶつける』ということの大切さに改めて気づかされます。疑問を持つということは、“興味がある”ということであり、“アンテナが高い”ということでもあります。成長していくにつれて、自分の中で処理できたり効率化を考えすぎて“見て見ぬふり”になってしまっていることがあります。現実を考えると仕方がない部分もありますが、結果として感度が落ちてしまうことは“もったいない”と思います。

どれだけ高い能力があっても、この世の中のことや人生における様々なことを全て感じることも知ることもできないと思います。私たちができることは、限られた時間の中で“目一杯”感じたり知ったりすることではないでしょうか。『完璧』とは誰かが決めることではないのかもしれませんが、これからは“自分の感覚”を今まで以上に大切に考えて動いていく時代だと思います。感度を高く保ち、思考を止めずに進んでいきましょう。(編集委員：入試広報室 鈴木)

レイチェル・ルイーザ・カーソン(Rachel Louise Carson、1907 年 5 月 27 日 - 1964 年 4 月 14 日)は、アメリカ合衆国のペンシルベニア州に生まれ、1960 年代に環境問題を告発した生物学者。(Wikipedia 参照)